

フォトニュース

第五次猪名川町総合計画基本構想案を答申



▲10月5日、町総合計画審議会の久隆浩会長は、本町の今後の10年間のまちづくりの指針となる総合計画について、「住みたい 訪れたい 帰りたい ふれあいのまち『ふるさと 猪名川』」を将来像とする基本構想案を真田町長に答申しました。町ではこの答申を受け、同案を12月開催予定の町議会定例会に提案することになります。

白く可憐なそばの花が満開



▲秋の風物詩「そば」が、町内で小さな白い可憐な花を咲かせています。刈り取りは11月初旬から中旬に予定されており、12月初旬には道の駅いながわで香り豊かな新そばとなります。

▶9月12日、消防本部は日生中央サピエで、救急フェアを開催しました。

救急アドバイザーによる救急なんでも相談コーナー・心肺蘇生法・AED体験など、大人から子どもまで約100人が参加しました。

参加者は、突然の事故や怪我に冷静に対応できるように、正しい応急手当の方法と、その大切さを学びました。



救急フェアを開催

地域に学ぶトライやる・ウィーク



▶9月29日から10月2日まで中谷・六瀬中学校2年生(122名)を対象とした地域の中で体験学習をする「トライやる・ウィーク」が実施されました。

町内のパン屋さんで活動する生徒達は、焼きたてのパンを棚に並べたり、レジで袋詰めをするなど、接客を体験しました。

柏原棚田王国で稲刈り体験!



▶9月13日、棚田王国の参加者約50人は、田植えからかかし作りなどを経て、待ちに待った収穫作業に臨みました。晴天の中、日ごろ味わえない緑豊かな自然のなかで気持ちの良い汗を流しながら、黙々と稲を刈り、刈った稲を束にして次々と稲木に掛けていきました。

いながわ 歴史ウォーク ⑦

猪名川地域の電気敷設

灯火親しむ候となりました。電気之恩恵を当然とする現在の私たちですが、猪名川町域に電灯が初めて灯されたのは大正初期のことでした。

「電気事業要覧(逓信省電気局編)」によれば、中谷村は大正4(1915)年に既給電区域となっています。

広根では大正5年11月から翌年2月に第1期工事が行われ、50戸に初めて電灯が敷設されました。それまでのランプ生活は火屋磨きなどが必要で手間のかかるものでした。スイッチを入れるだけで明るくなる電灯は、人々に感動を与えたことでしょう。しかし、当時はまだ「10燭1灯、平均点灯時間2.5時間」



▲杉生山仁地区に電灯が灯る様子

程度で、生活が変わる程ではなかったようです。電力は猪名川水力電気株式会社、現在は一庫ダム湖底にある大路次川と田尻川の出合いにあった水力発電所などから供給されていました。

なお、六瀬村では大正8年1月に羽束川電気株式会社の小柿水力発電所から給電が開始されました。昭和39年、杉生山仁地区で町内最後の電気敷設が行われました。



猪名川小学校

▼運動会の応援で使う大漁旗をグループで、図工の時間に作りました。

5年生共同作品



▼さすが6年生。字のバランスがしっかりとれています。

上田 美帆さん(6年)

仲間

六年 上田 美帆

三年くぼたく海

日

▲3年生から始まる毛筆。3作目、力強く書けました。

久保 拓海くん(3年)

▼一人一輪、ヒマワリをかきました。1年教室はヒマワリ畑になっています。

岡田 悠輝くん(1年)

